

NO. 23 2011年6月発行

大阪YWCAシャロン千里通信

発行：大阪YWCAシャロン千里
〒565-0874 大阪府吹田市古江台3-9-3
TEL：06-6872-0505 FAX：06-6872-0503

喜んで生きていたい

東日本大震災の被害に遭われた方のご冥福をお祈りいたします。

大震災の後、私は今をどう生きたら良いのかという問いに何度も自問自答しています。

同じ国、同じ時代に生きていた尊い命が、天災で、そして人災で一瞬の内に消え去ってしまった事実。命というものがこんなにも淡く儚いものだったという事を思い知らされます。

また、多くの方が被災されている現状は、2ヶ月近く過ぎた今でも続いています。

被災された方を思い、義援金を送ったり、ボランティアとして関わったりすることも大切ですが、それと同時に、私たちは私たち自身の今をどう生きるかという事を考える事も大切であると思います。

私たちは自分自身が喜ぶような生き方をしているでしょうか。私たちは人を喜ばせる事をしているでしょうか。

人とのつながりの中で、私は自分自身が喜び、また感謝して人を喜ばせる事ができる生き方をしたいのです。

今まで私は、仕事を通して多くの方と出会ってきました。

私の仕事は利用者お一人おひとりの尊厳を守り、自分らしい生き方を支援する事です。ご高齢になられ、病気や障害をもたれても、生きていく力は強いものです。利用者の方を励ましながら、実は私も励まされ喜ばせて頂いています。

この4月から、ケアハウスの副施設長を拝命しました。

入居者の皆さまやシャロン千里に関わってくださる全ての皆さまとともに感謝して喜んで生きていたいと願っています。

副施設長 川崎 一代



昨年度よりケアハウスに自治会が発足しました。日常生活をより楽しく豊かにしたいとの思いを込めて自主的な運営が実施されております。熱気あふれる活動をご紹介します。



「ふれあいの会」



『自分たちの問題は、自分たちで考えよう』というスローガンのもと、2010年4月より発足したシャロン千里自治会「ふれあいの会」。

選挙にて役員7人を選出。私も含め、役員をお受けくださった方達もみんな初めてのこと。毎月第3木曜日に集まり、会則づくりに頭をひねり「ふれあいの会ボックス」に寄せられたご意見に一喜一憂し、報告会に四苦八苦しなごら、もちろん施設側にも協力を求め、さまざまな問題を一生懸命考えてきました。昨年12月には、初めての臨時総会を開き、入居者みんなで『共同の物干し場』について話し合いました。

今年3月には、新旧役員が一緒になって、始めて入居者中心の避難訓練を行う事ができました。2月に、役員を世話人と名称変更し4月には半数の世話人さんが新世話人さんと交代し、新体制で2年目をスタートしたばかりです。伝達が不十分でご迷惑をおかけしたこともありましたが、全て事務局である私の責任と反省しています。昨年の経験を基に少しずつ改善できたらと思っています。どうぞ、温かい目で見守ってください。

ケアハウス生活相談員 飯田雅子

職員紹介

※2010～2011年度採用の新職員をご紹介します。

昨年4月より、厨房調理員兼栄養士として働かせていただいている畑山納緒です。

シャロン千里にはとても温かい雰囲気があり、入居されている皆様がお元気ににこにこことされていて、今では私自身もほっとできる場所となっています。皆様に美味しいと言っていただけることが私の喜びでもあるので、そのようなお食事を提供できるように一生懸命がんばりたいと思います。

ケアハウス調理員・栄養士
畑山納緒



こんにちは、そして初めまして昨年10月からシャロン千里で働かせて頂くことになった吉井知加と申します。ケアハウスでは初めての事ばかりで、ずっと緊張のしっぱなしでしたが、皆さまに温かく迎えていただき少しホッとしております。元気と体力だけは自信のある大阪のおばちゃん！です。ピカピカの一年生の気持ちで笑顔を忘れず、皆さまとのふれあいを大切にしていきたいと思っています。

ケアハウス介護職員 吉井知加



はじめまして
看護師の西本香織
です。4月から、
シャロン千里で働く
ことになりました。
皆様が、安心して過ごすことができる様に、お手伝いをさせていただきます。
お気軽に声をかけてください。

ケアハウス看護職員 西本香織



2月からシャロン千里で運転手、宿直専門員として働くことができ嬉しく思っています。未熟な私ですが、利用者様が安心して楽しく過ごしていただけるように頑張らせて参ります。

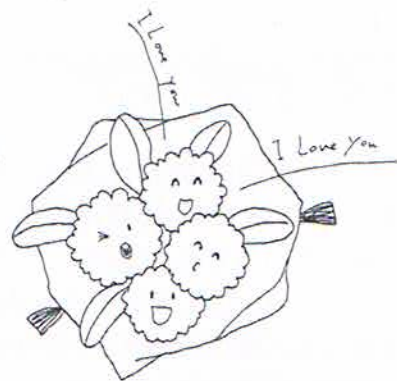
趣味はこれからの暖かい季節に家族とキャンプに行くのを楽しみにしています。

運転手・宿直専門員
楳 信行



「ふれあいの会」も新しい年度がはじまりました。
 これからも「日々快適に楽しく、仲良く暮らせるように」を
 モットーに全員で協力して、一緒に生活してゆきたいと思います。
 また「ゆっくり、ゆっくり」、「気楽に、気楽に」をプラスして
 話し合ってゆきたいと思います。

尚、定例会の報告はその都度、食堂のふれあいの会掲示板に
 展示します。
 ふれあいの会世話人 梅原 浩



「ふれあいの会」が発足して1年になります。

私は世話人をさせて頂きましたが、私自身今まで自治会のあるところに住むことがありません
 でしたので、どうあるべきかと考へながらの1年でした。

振り返って反省することが多く、お役に立ったかと自問しています。残された人生を過ごす年
 月を、楽しく安らかに暮らせる様に役に立つ会でありたいです。「同じ釜の飯を食べる仲間」と
 言う言葉がありますが、お互い心を開いて助け合い、心ふれあい仲良くしてゆきたく思います。
 そして新しく入居される方が、不安なく暮らせる様に役に立つ会でありたいです。

ふれあいの会世話人 葛良清子

シャロン千里に入職して、あっという間に3ヶ月が過
 ぎました。ケアマネジャーとしてシャロン千里で働く
 ことができ、嬉しく思っています。

私は現在の住所に住んで23年になりますが、隣は独
 居高齢者で90才の女性がお住まいです。夏になり窓
 を開ける様になると、それはそれは大きな笑い声が毎
 日聞こえてきます。私達家族はその大きな笑い声を聞
 いて、目を見合わせて大声で笑ってしまいます。
 シャロン千里で働くにあたり、利用者様やご家族の方
 に、日々の生活の中でほんのひと時でも、心の中に「笑」
 を持って頂く事ができ、ほんの少しでもどこかにゆと
 りを持って頂くお手伝いができればと思います。

ケアプランセンター
 介護支援専門員 山崎清美



こんにちは
 ケアハウス職員の
 安東由美子です。

昨年の5月より
 シャロン千里で働いています。
 仕事は館内の清掃、お風呂の準備、
 食事の見守り、受付や雑務です。
 クラブ活動ではほのぼののショップ
 を担当しています。未熟な私です
 が先輩職員さんを見習い、頑張っ
 ていきたいと思っています。
 ケアハウスの入居者のみなさまが
 安心して毎日楽しく過ごして頂
 けるように努めていきたいです。
 ケアハウス介護職員 安東由美子



はじめまして山田啓子です。
 この春から、介護支援専門と
 してケアプランセンターで勤務しています。
 一日が「あっという間に終わってしまう」と
 いう忙しさですが、利用者様の笑顔を励みに
 頑張っています。桜の美しい季節から新緑の
 季節に移りつつあるこの北千里の地で、新た
 な一步を踏み出しました。
 よろしくお願ひいたします。

ケアプランセンター
 介護支援専門員 山田啓子

昨年9月から、受付に座って
 おります「杉田久子」です。
 電話の応対やいろいろな受付
 業務が主な仕事です。
 趣味は音楽を聞くこと、おい
 しい物を食べる事です。

この冬のマイブームは「しょうが」。毎日「は
 ちみつしょうが湯」を飲んで、ホッとしながら
 体の中から温まっていました。受付で見か
 けたら声をかけてくださいね。

ケアハウス事務職員 杉田久子





フーフーの英語で遊ぼう



こども館では 2010 年秋から月に 1 回、幼児とお母さんのための英語プログラムを始めました。今回はこの新しい取り組みについて紹介します。

なんといっても、講師のフーフーこと藤川史子さんがとびっきりユニークです。英語を教えていたフーフーは、スキルアップを目指してカナダのトロントに語学留学をします。そこで「遊ぶを通して、豊かな想像力と問題解決力を育む」カナダの保育に出会い、セネカカレッジ保育科で二年間、保育の勉強をします。

カナダ流のしつけにおける目標は、こども達が自分で①問題を解決できるようになる。②行動をコントロールできるようになる。③よい選択と判断ができるようになる。④よい結果を論理的に予想し、失敗してもそこから学ぶ等です。この考え方に基づいた、フーフーの英語レッスンは、毎回手造りの教材や楽しいアクティビティが用意されていて、単なる英語教室ではなく、こども達の自由な発想や表現力を身につける場になっています。

フーフーは、カナダでもう一つ大きな出会いをします。それはジャマイカの貧困地帯でのボランティアです。カナダからジャマイカのリバトンに出かけ、家を建てたり、日本語や折り紙を教え現地のこども達と交流しました。この活動はフーフーが日本に戻ってきてさらに広がりを見せ、日本のこども達の書道作品を現地に送るなどし、今やカナダ・日本・ジャマイカの三国を結んでこども達の交流が続いています。

この6月にはフーフーの保育学の恩師であり、ジャマイカ支援ボランティアのコーディネーターでもあるリン・カルソーさんとテリー・ケリーさんが来日します。二人は東日本の震災ボランティアに向かう予定ですが、忙しい合間をぬってこども館にもやってきます。トロント市内の Ontario Early Years Centers のリテラシースペシャリストであるテリーが、ヨガとリテラシーを組み合わせたプログラムを行います。関心のある方は是非のぞいてみてください。

※リテラシー：識字能力・読み書きでき情報を受信・発信し活用する能力のこと。

こども館・館長 辻川さとみ

☆☆☆ フーフーの英語で遊ぼう ☆☆☆

日時：第3金曜 14:00～15:00～ 親子で500円
スペシャルプログラム：6月17日 15:00～英語でヨガ

職員紹介

シャロン千里でヘルパーをして8年が過ぎました。振り返ると、何もわからず失敗を繰り返した恥ずかしい日々ばかりです。それでも毎日が楽しく今日まで続けてこられたのは、一緒に働く仲間と利用者様の素敵な笑顔のおかげです。そして皆様の前向きに頑張っておられる姿に後押しされ、4月よりサービス提供責任者となりました。

まだまだ未熟な私ですが、精一杯頑張りたいと思います。

ヘルパーステーション
サービス提供責任者
小柳康子



はじめまして
今年の2月より、ヘルパーステーションで勤務しています。昨年秋に、ヘルパー2級養成講座があると聞きシャロン千里の門をたたきました。講座中は自分にできるのかという不安と、知る楽しさの毎日でした。講座終了後お声をかけて頂き、働く事になりました。はじめての事ばかりで戸惑うことも多く、自分自身に余裕もなく毎日があっという間に過ぎていきます。ヘルパーの仕事は日々変化します。変化に対応していくには当分時間がかかるとは思いますが、精一杯がんばります。

ヘルパーステーション
訪問介護員 三嶋裕子

